

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 29日

事業所名 につこりバンピーノ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用定員に対して適切なスペースを確保している。児童の様子を見ながら家具の配置を変えている。	課題に取り組むスペースと余暇時間を楽しむスペースを分ける改善が環境的に好ましいと考えている。
	2 職員の配置数は適切である	○			その日の利用人数に合わせたうえで、法令で定められた人員の配置に繋げている。	強度行動障害児の身体的成長に伴い、マンツーマンでの対応が増えているため、今後は増員も視野に入れている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			こどもの態様に応じている。	身体に配慮し段差をなくしたり、手すりを設置する等の工夫はしているが、今後も改善点を見出し是正する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			最低でも月に1回ミーティングを行い内容を全員で把握している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			要望や評価の低いところに関して月1回以上の全体ミーティングで検討を行っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所のホームページにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	現在は行っていない。	今後必要であれば検討する。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			県主催「虐待防止」研修は必ず参加している。他外部研修も積極的に参加している。	今後、職員の資質向上のためにより多くの研修に参加したいと考えている。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			職員間で利用者の様子を把握し、保護者とアセスメントを行い、職内でのカンファレンスを実施した上で個別支援計画やモニタリング案を作成している。	半年に1回の面談が難しい保護者には、電話や送迎時に直接意見交換できる場を設けるなど配慮が必要と考える。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			フェイスシート、アセスメントシートや事業所独自の基本情報シートを2枚作成している。	基本情報シートは1年に1度更新をする。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員間で意見を出し合って、活動プログラムを決定している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節のイベントなども設けたり、利用者が楽しく参加できるように活動を考えている。	本人や保護者のニーズを踏まえた上で、それぞれに合ったプログラムも取り入れていきたいと思っている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			職員間で話し合い、それぞれに合った課題を設定し支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			職員間で話し合い、それぞれに合った課題を設定し支援している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援前ミーティングを行い、利用者の情報を共有し、その日の担当を決めている。	
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			起きた出来事や気づいた点などの振り返りを、支援後ミーティングとして翌日に行っている。		
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			HUGシステムを活用しており、サービス提供記録および、保護者との情報共有や日々の記録として使用している。	HUGのアプリがダウンロードできるようになった事を保護者に順次お伝えする。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングを実施し、目標設定の適性やニーズを見直すことで必要があれば是正し改善に繋げている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			ガイドライン、基本活動ア～エを複数組み合わせ、工夫して支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者と普段児童に関わっている児童指導員などが参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校からの行事予定などの連絡はほとんどなく、保護者に確認をしたり、学校お迎え時にこちらから担当教諭に確認をしている。今年度も1校のみ学校参観をさせてもらい、担当教諭と文書で情報交換を行った。	
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	現在対象児童なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		就学前の情報は保護者から聞き取りを行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			サービス移行の際は、これまでの支援内容などを引き継ぎを行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			支援内容で疑問や不明点が発生した場合は、専門機関に直接問い合わせ助言を受けた事がある。今年度は該当する児童がいなかった。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		まだまだ感染症へのリスクが想定される中で、他児童との交流を控えることが保護者のニーズではないかと認識している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		参加を検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			日々の送迎の際に、情報を共有している。サービス提供記録でも詳しい支援内容を共有している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者との面談や事業所での支援で気付いたことがあれば、その都度保護者に情報を共有し自宅で活かせるようアドバイスをしている。また、自宅でのお子さまの状況で困りごと等がある場合は、いつでも相談できる体制をとっている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			初回ご利用前に契約書を交わす際、事業重要事項説明書として丁寧に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			保護者との連携はHUGシステム上でのやりとりをメインとしているが、気になることや相談があれば、その都度メールやLINE等でも随時対応している。	

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	現況、希望者がいない。 今後、希望者がある場合は開催も検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情の内容を正しく聞き取りし、日付や経緯について記録を残している。職員が内容を把握し、同じことを繰り返さないよう誠意をもって対応することが重要だと認識している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			HUGシステムを通して発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○			職員(パート含む)・外部講師・介護体験の大学生には、児童の個人情報保護に関する留意点を予め説明し周知している。 個人の顔が写っている写真は、HUGシステム内 個別のサービス提供記録で自身のお子様のみ見る事が可能で他の画像は見られない設定になっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			お子さまの特性に配慮した伝達方法を実施している。保護者との意思の疎通や情報伝達にも十分に配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			事業所の近くを散歩する中で顔を合わせる近隣住民とは欠かさず挨拶をし良好な関係が築けていると思う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			その都度最新の情報を保護者に提供し、各家庭に事前に配布した保護者ファイルに綴り込みを依頼する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			1年に2回、様々な非常事態を想定した避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			県市主催「虐待防止」研修は必ず参加している。 虐待防止委員会を設置し、職員一人ひとりが虐待防止への理解を深め適切な対応を行っている。 「虐待防止」のポスターを張り出した。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在対象児童はいないが、身体拘束に該当する利用者がいる場合にはその都度保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で個別支援計画に記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	現在対象児童なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット事例はその都度グループラインで内容を共有し、全体ミーティングで協議している。ヒヤリハットがあった場合は、詳細を記録で残している。